

愛知県環境影響評価審査会 会議録

1 日時 2021年（令和3年）6月11日（金）午前10時から午前10時30分まで

2 場所 愛知県庁本庁舎6階 正庁

3 議事

- (1) (仮称) 新田原臨海風力発電所 環境影響評価方法書について
- (2) (仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価方法書について
- (3) その他

4 出席者

(1) 委員

中山会長、夏原部会長、大石委員、櫃田委員

【オンライン出席】

岡村委員、長田委員、片山委員、鷺見委員、田代委員、塚田委員、西田委員、二宮委員、葉山委員、義家委員、吉永委員

(以上15名)

(2) 事務局

環境局：

岡田環境局長、小野技監、加藤環境政策部長

環境局環境政策部環境活動推進課：

谷口課長、戸田担当課長、鈴木課長補佐、国立主査、中村主任、大島技師

(以上9名)

(3) 事業者等

4名

【オンライン出席】11名

(以上15名)

5 傍聴人

1名

6 会議内容

(1) 開会

- ・ 会議録の署名について、中山会長が塚田委員と義家委員を指名した。

(2) 議事

ア (仮称) 新田原臨海風力発電所 環境影響評価方法書について

- ・ 資料2について、夏原部会長から説明があった。

<質疑応答>

【中山会長】資料2の部会報告について意見はないため、このまま審査会の答申としてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

【中山会長】異議なしとされたため、部会報告の内容をこのまま審査会から知事への答申とする。

- ・ 資料2の「(仮称)新田原臨海風力発電所 環境影響評価方法書について(報告)」を、そのまま審査会答申とすることで了承され、別紙1のとおり答申した。

イ (仮称)あつみ第二風力発電事業 環境影響評価方法書について

- ・ 資料4について、夏原部会長から説明があった。

<質疑応答>

【中山会長】資料4の部会報告について意見はないため、このまま審査会の答申としてよろしいか。

(委員から意見等はなし)

【中山会長】異議なしとされたため、部会報告の内容をこのまま審査会から知事への答申とする。

- ・ 資料4の「(仮称)あつみ第二風力発電事業 環境影響評価方法書について(報告)」を、そのまま審査会答申とすることで了承され、別紙2のとおり答申した。

ウ その他

- ・ 特になし。

(3) 閉会

令和3年6月11日

愛知県知事
大村秀章 殿

愛知県環境影響評価審査会
会長 中山 恵



(仮称) 新田原臨海風力発電所 環境影響評価方法書について (答申)

令和3年4月23日付け3環活第8号の諮問については、別添のとおりお答えします。

(仮称) 新田原臨海風力発電所 環境影響評価方法書についての答申

はじめに

(仮称) 新田原臨海風力発電所 環境影響評価方法書 (以下「方法書」という。) について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

事業者は、以下の事項について十分に検討した上で、適切に環境影響評価を実施し、その結果を踏まえ環境影響評価準備書 (以下「準備書」という。) を作成する必要がある。

1 全般的事項

- (1) 事業計画及び工事計画の具体化に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を考慮し、最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。
- (2) 対象事業実施区域 (以下「区域」という。) 周辺には、既設の風力発電所に加え、計画中の風力発電所があることから、騒音、風車の影、動物及び景観に関して累積的な影響が懸念される。
このため、これらの風力発電所の事業者、関係自治体及び地域の状況に精通した専門家等から情報の収集に努め、騒音、風車の影、動物及び景観に関して、累積的な影響について適切に調査、予測及び評価を行うこと。
- (3) 調査地点及び予測地点について、その設定理由をわかりやすく示すこと。
- (4) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合等においては、必要に応じて、環境影響評価の項目及び手法を見直し、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

2 騒音、風車の影

区域周辺に住宅等が存在することから、施設の稼働に伴う騒音及び風車の影について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

3 水質

区域は海域に隣接しており、また、工事計画の詳細が明らかになっていないことから、濁水の流出を否定できない。

このため、工事計画を具体化した上で、その内容を踏まえて、必要に応じ、造成等の施工による水の濁りを環境影響評価の項目として選定すること。

4 動物、生態系

- (1) 区域及びその周辺においては、チュウヒ等の重要な種が確認されており、また、区域の周辺には、水鳥の重要な渡来地である汐川干潟が存在する。さらに、サシバやハチクマを始めとする多くの鳥類の渡りのルートであることから、施設の稼働に伴う鳥類の風力発電機への衝突事故や移動経路の阻害等が懸念される。

このため、専門家等の指導・助言を得ながら、鳥類に及ぼす影響について適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響の回避、低減に努めること。

- (2) 鳥類（水鳥類、渡り鳥、希少猛禽類）の調査においては、構造物に対する回避行動、餌場やねぐら等への移動経路、渡りの経路などの把握が重要となることから、飛翔軌跡や飛翔高度を的確に記録すること。

また、生態系の上位性注目種について、精度の高い好適採餌環境分布図に基づく予測及び評価をするために、行動圏が把握できるように適切に調査を行うこと。

なお、定点調査付近で希少猛禽類の営巣地が確認された場合には、繁殖を阻害することがないように、調査地点を変更するなど、できる限り影響が小さい手法により調査を行うこと。

- (3) 鳥類（水鳥類、渡り鳥、希少猛禽類）の風力発電機への年間衝突予測数の算出に用いる飛翔軌跡調査等については、種の活動時間を正しく反映した調査時間を設定し、適切に調査を実施すること。

また、年間衝突予測数の算出に当たっては、複数の回避率を用いて算出すること。

5 その他

- (1) 準備書の作成に当たっては、住民等の意見を十分に検討するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。

- (2) インターネットの利用により公表する図書について、印刷できるようにすることや、縦覧期間後も引き続き閲覧できるようにすることなど、住民等の理解促進及び利便性の向上に努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和3年4月23日	審 査 会	知事からの諮問 方法書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 部会の設置及び付託
令和3年6月3日	部 会	方法書の内容の検討 関係市長意見の検討 部会報告の検討
令和3年6月11日	審 査 会	方法書の内容の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

生田 京子	名城大学理工学部教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
大石 弥幸	大同大学名誉教授
岡村 聖	名古屋産業大学現代ビジネス学部教授
長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
上島 通浩	名古屋市立大学大学院医学研究科教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
鷺見 哲也	大同大学工学部教授
田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
塚田 森生	三重大学大学院生物資源学研究科教授
富田 寿代	鈴鹿大学国際人間科学部教授
中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
◎中山 恵子	中京大学経済学部教授
夏原 由博	名古屋大学名誉教授
西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
○二宮 善彦	中部大学工学部教授
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
葉山 嘉一	公益財団法人日本鳥類保護連盟評議員
櫃田 珠実	名古屋芸術大学芸術学部教授
宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
義家 亮	名古屋大学大学院工学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)

令和3年6月11日

愛知県知事
大村秀章殿

愛知県環境影響評価審査会
会長 中山恵子



(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価方法書について (答申)

令和3年4月23日付け3環活第39号の諮問については、別添のとおりお答えします。

(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価方法書についての答申

はじめに

(仮称) あつみ第二風力発電事業 環境影響評価方法書 (以下「方法書」という。) について、環境の保全の見地から慎重に検討を行った。

風力発電事業は、再生可能エネルギーの導入・普及に資するものであり、地球温暖化対策の観点からは望ましいものである。

一方、本事業の計画段階環境配慮書では、事業実施想定区域のうち、風力発電機設置想定範囲の全域が三河湾国定公園の第2種特別地域及び鳥獣保護区に指定されていることに加え、大部分が保安林に指定、又は植生自然度10の砂丘植生が分布する砂浜であり、重要な自然環境のまとまりの場となっていることから、事業の実施に伴う動物、植物及び生態系への重大な影響が懸念された。

このため、知事意見において、重要な自然環境のまとまりの場の改変を回避するよう、事業計画の見直しを行うことを求めた。

これに対し、方法書では、自然裸地を含む汀線付近における風力発電機の配置を検討することとしているものの、対象事業実施区域 (以下「区域」という。) の大部分が砂浜に設定されている。砂浜には砂丘植生が分布していることに加え、海浜性の動物及び植物の重要な種の生息・生育が想定されることから、方法書に示された事業計画は依然として自然環境への重大な影響が懸念される。

このため、砂丘植生の分布状況や海浜性の動物及び植物の重要な種の生息・生育状況を詳細に調査し、これらに対する影響について適切に予測及び評価を行うとともに、その結果を踏まえ、重要な自然環境のまとまりの場である砂浜への重大な影響を回避又は十分に低減できるよう適切な事業計画とすること。

また、環境影響評価準備書 (以下「準備書」という。) の手続に当たっては、以下の事項について十分に検討した上で、適切に環境影響評価を行い、予測される影響に対しては、事業内容を十分に精査し、最大限の環境保全措置を講ずること。

1 全般的事項

- (1) 事業計画及び工事計画の具体化に当たっては、環境の保全に関する最新の知見を考慮し、最善の利用可能技術を導入するなど、より一層の環境影響の低減について検討すること。
- (2) 区域周辺には、既設の風力発電所に加え、計画中の風力発電所があることから、騒音、風車の影、動物及び景観に関して、累積的な影響が懸念される。

このため、これらの風力発電所の事業者、関係自治体及び地域の状況に精通した専門家等から情報の収集に努め、騒音、風車の影、動物及び景観に関して、累積的な影響について、適切に調査、予測及び評価を行うこと。
- (3) 調査地点及び予測地点について、その設定理由をわかりやすく示すこと。
- (4) 環境影響評価の実施中に環境への影響に関し新たな事実が生じた場合等においては、必要に応じて、環境影響評価の項目及び手法を見直し、適切に調査、予測及び評価を行うこと。

2 騒音、風車の影

区域周辺に特別養護老人ホーム及び住宅等が存在することから、施設の稼働に伴う騒音及び風車の影について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

3 動物、植物、生態系

- (1) 区域及びその周辺はサシバ等の鳥類の渡りルートとなっている可能性があり、また、区域周辺には重要野鳥生息地（IBA）に指定された伊川津が存在することから、施設の稼働に伴う鳥類の風力発電機への衝突事故や移動経路の阻害等が懸念される。

このため、鳥類のポイントセンサス法及び定点観察法による調査においては、構造物に対する回避行動、餌場やねぐら等への移動経路、渡りルートなどが把握できるよう、飛翔軌跡や飛翔高度を的確に記録すること。

- (2) 鳥類の定点観察法による調査においては、区域を含むエリアが「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き（平成 23 年 1 月 環境省）」で猛禽類の渡りルートとされていることから、当該手引きを踏まえ、空間飛翔調査、飛翔軌跡調査及び年間衝突予測数の算出に加え、セオドライトを用いた飛翔高度の調査及び気流調査を行うこと。

- (3) ミサゴを含む希少猛禽類の定点観察法による調査においては、「猛禽類保護の進め方（改訂版）—特にイヌワシ、クマタカ、オオタカについて—（平成 24 年 12 月 環境省）」等を参考として、2 営巣期を含む調査期間を設定し、適切に調査を行うこと。

- (4) 鳥類（渡り鳥、希少猛禽類）の風力発電機への年間衝突予測数の算出に用いる飛翔軌跡調査等については、種の活動時間を正しく反映した調査時間を設定し、適切に調査を行うこと。

また、年間衝突予測数の算出に当たっては、複数の回避率を用いて算出すること。

- (5) 区域周辺の砂浜には、シロチドリ等の鳥類が生息している可能性があることから、工事用資材等の搬出入及び建設機械の稼働に伴う騒音及び振動による鳥類への影響が懸念される。

このため、これらの影響について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ適切な環境保全措置を検討し、環境影響を回避、低減すること。

- (6) 区域の大部分は砂浜であり、ハマベゾウムシ、カワラハンミョウ等の海浜性の昆虫類が生息している可能性があることから、地形改変及び施設の存在による昆虫類への影響が懸念される。

このため、昆虫類の調査については、海浜性の昆虫類の生息地の分布、生息状況等を把握できるよう適切に調査を行うこと。

- (7) 区域及びその周辺には、植生自然度 10 の砂丘植生が分布しており、また、区域内にはハギクソウ等の重要な種が生育している可能性があることから、地形改変に伴う植物への影響が懸念される。

このため、これらの影響について、適切に調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、砂丘植生への影響をできる限り低減するとともに、ハギクソウ等の重要な種が確認された場合は、その生育地への影響を回避する等の適切な環境保全措置を講ずること。

- (8) 砂浜に分布している砂丘植生については、工事の実施に伴う外来種の侵入による影響が懸念されることから、侵入防止等の対策を適切に講ずること。
- (9) 工事中道路工事、風車基礎工事、風車組立工事等の各工事の工事計画の詳細が明らかになっていないことから、工事に伴う動物及び植物の生息・生育環境への影響は否定できない。

このため、工事計画を具体化した上で、必要に応じ、適切な環境保全対策を講ずるとともに、これらを準備書に記載すること。

4 景観

区域及びその周辺は、三河湾国定公園の第2種特別地域に指定されている。当該国定公園は渥美・知多半島と湾奥部の海岸景観等を主な理由として指定されており、地形改変及び施設の存在に伴い、当該国定公園の風致景観の根幹を成す海岸景観への影響が懸念される。

このため、当該国定公園及び施設の管理者、関係自治体、地域住民、利用者等の意見を踏まえ、調査、予測及び評価を行い、その結果を踏まえ、主要な眺望点等から展望する場合の著しい妨げにならない事業計画とすること。

5 その他

- (1) 準備書の作成に当たっては、住民等の意見を十分に検討するとともに、わかりやすい図書となるよう努めること。
- (2) インターネットの利用により公表する図書について、印刷できるようにすることや、縦覧期間後も引き続き閲覧できるようにすることなど、住民等の理解促進及び利便性の向上に努めること。

検 討 の 経 緯

年 月 日	会 議	備 考
令和3年4月23日	審 査 会	知事からの諮問 方法書の内容の検討 住民意見の概要等の検討 部会の設置及び付託
令和3年6月3日	部 会	方法書の内容の検討 関係市町長意見の検討 部会報告の検討
令和3年6月11日	審 査 会	方法書の内容の検討 部会報告 答申の検討 知事への答申

愛知県環境影響評価審査会委員

生田 京子	名城大学理工学部教授
伊藤 由起	名古屋市立大学大学院医学研究科准教授
大石 弥幸	大同大学名誉教授
岡村 聖	名古屋産業大学現代ビジネス学部教授
長田 和雄	名古屋大学大学院環境学研究科教授
片山 直美	名古屋女子大学健康科学部教授
上島 通浩	名古屋市立大学大学院医学研究科教授
佐野 泰之	愛知工業大学工学部教授
鷺見 哲也	大同大学工学部教授
田代 むつみ	名古屋大学未来社会創造機構特任講師
塚田 森生	三重大学大学院生物資源学研究科教授
富田 寿代	鈴鹿大学国際人間科学部教授
中野 正樹	名古屋大学大学院工学研究科教授
◎中山 恵子	中京大学経済学部教授
夏原 由博	名古屋大学名誉教授
西田 佐知子	名古屋大学博物館准教授
○二宮 善彦	中部大学工学部教授
橋本 啓史	名城大学農学部准教授
葉山 嘉一	公益財団法人日本鳥類保護連盟評議員
櫃田 珠実	名古屋芸術大学芸術学部教授
宮崎 多恵子	三重大学大学院生物資源学研究科准教授
義家 亮	名古屋大学大学院工学研究科准教授
吉永 美香	名城大学理工学部教授

◎会長 ○会長代理

(敬称略、五十音順)